



# 学校だより

2月号

令和6年1月31日

横浜市立南小学校

校長 薄田 秀明



## 「春よ来い」

副校長 新谷 亜希子

先日弘明寺商店街を歩いていた、「どこかで春が」のメロディーが流れていました。マスクをしていることをいいことに、思わず「どこかで春が生まれてる～」と口ずさんでしまいました。この歌の歌詞は、「山の3月～」と続くので、少し気が早いのですが、2月4日が立春ということを考えて、春はもうそこまできています。次の日、手袋をしていても手がかじかんでしまうほど寒い朝でしたが、通勤途中に大岡川沿いの桜の木を見てみると、枝にたくさんのつぼみがついていました。まだまだ硬く小さなつぼみですが、着実に春が生まれているのです。

先月、南区一斉授業研究会で本校は、1年生と4年生の図工の授業を公開しました。子どもたちが生き生きと表現したり、話し合いを通して深め合ったりする姿を見ていただくことができました。4年生は、名画のポーズをまねして人物の気持ちや場面の様子を想像する学習でした。「よく見るとこの人物は上の方を見ている。」「上を向いてみたら、なんだか気持ちが変わるよ。」絵画を見て感じるだけでなく、動作を加えてみることで、気持ちの変化に気づくことができました。「上を向いて歩こう」この名曲は、「つらいことがあってもくじけず、涙がこぼれないように上を向いて歩いて」という意味が込められていると思っています。つらいことや悲しいこと、落ち込んでしまうことがあっても、ちょっと上を向いてみたら、気持ちがほんの少し上向きに、ほっぺを少し持ち上げてみたら、明日はもっと笑顔になれるかも・・・と思えるかもしれません。子どもたちが、目線や体の向きでも繊細な気持ちの変化を感じているのを見て、なぜか、春めいた日差しの青空を見上げてみようという気持ちになりました。

「この気持ちはなんだろう」これは、中学生の合唱曲としてよく取り上げられる、私の大好きな曲「春に」の冒頭部分であり、曲の中でも何度も何度も問いかかけられます。芽吹く季節、心の中では、一つにはまとめることのできない様々な気持ちや感情が込み上げてくることもあるでしょう。まるでそこにつぼみがあって、いつか花を咲かせようとしているかのよう。

「春よ来い・・・つぼみもみんなふくらんで はよ 咲きたいと 待っている」

学校は年度末を迎え、あわただしさを増していますが、春に向かってエネルギーが満ちてくる時期でもあります。一人ひとりの素敵な花が咲くように、心も体も栄養いっぱい2月を過ごしたいと思います。引き続き、ご協力をお願いいたします。